

## 30日 水曜

### 使徒



28:11 三か月後、私たちは、この島で冬を越していたアレクサンドリアの船で出発した。その船首にはディオスクロイの飾りが付いていた。

28:12 私たちはシラクサに寄港して、三日間そこに滞在し、

28:13 そこから錨を上げて、レギオンに達した。一日たつと南風が吹き始めたので、二日目にはプテオリに入港した。

28:14 その町で、私たちは兄弟たちを見つけ、勧められるままに彼らのところに七日間滞在した。こうして、私たちはローマにやって来た。

28:15 ローマからは、私たちのことを聞いた兄弟たちが、アピイ・フォルムとトレス・タベルネまで、私たちを迎えに来てくれた。パウロは彼らに会って、神に感謝し、勇気づけられた。

28:16 私たちがローマに入ったとき、パウロは、監視の兵士が付いてはいたが、一人で生活することを許された。

28:17 三日後、パウロはユダヤ人のおもだった人たちを呼び集めた。そして、彼らが集まったとき、こう言った。「兄弟たち。私は、民に対しても先祖の慣習に対しても、何一つ背くことはしていないにもかかわらず、エルサレムで囚人としてローマ人の手に渡されました。

28:18 彼らは私を取り調べましたが、私に死に値する罪が何もなくだったので、釈放しようと思いました。

28:19 ところが、ユダヤ人たちが反対したため、私は仕方なくカエサルに上訴しました。

自分の同胞を訴えようとしたわけではありません。

28:20 そういうわけで、私はあなたがたに会ってお話したいと願ったのです。私がこの鎖につながれているのは、イスラエルの望みのためです。」

28:21 すると、彼らはパウロに言った。「私たちは、あなたについて、ユダヤから何の通知も受け取っていません。また、ここに来た兄弟たちのだれかが、あなたについて何か悪いことを告げたり、話したりしたこともありません。

28:22 私たちは、あなたが考えておられることを、あなたから聞くのがよいと思っています。この宗派について、いたるところで反対があるということを、私たちは耳にしていますから。」

パウロ一行はディオスクロイの飾りのある船で出帆しましたが、このディオスクロイはゼウスの双子の兄弟であり、その飾りがあるということは偶像のついた船に乗っていたということです。もちろん偶像のついた乗り物に乗るのは気持ちが良いものではありませんが、しかしそのようなものでも主によって用いられることは、考え方によっては痛快です。主がその御用のために選んだものであるなら、主の栄光のために豊かに用いていただきましょう。

レギオンはイタリア半島の南端、ポテオリは今のナポリ辺りです。すでにそこまでも福音は届いていて、クリスチャンとなった人々はパウロたちを励ました。パウロ以前に宣教されていたのですが、それでもパウロがローマに福音を伝えたといわれます。実際彼はローマ人への手紙を書いて、福音の教理を明確にしたのです。

このように宣教、伝道は1人のヒーローがするものではありません。主ご自身が三位一体の共同

体で存在しておられるように、その宣教のわざも共同体で進められるのです。謙遜に他のクリスチャンの助けを仰ぐ必要があります。

しかし一方パウロは、自分が行かなければならないという信念も持っていました。これもまた神の働きがすばらしさであって、人任せではなく自分がやろうという気持ちも重要なのです。今さら自分がやっても…とは思わずに、何か役に立てるはずだからと、実行することは大切です。それによって複数の人々が主の働きに立ち上がり、豊かさや確かさをもたらすことになったからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

